

絹谷幸二賞

撮影・安達康介
本文構成・編集部
取材協力・すし善銀座店
写真協力・日動画廊

【画家の使命、コレクターの役割】鼎談

松村謙二（アリヴィエ企業再生グループ代表取締役会長・大阪大学大学院法学研究科招聘教授）

絹谷幸二（洋画家・日本芸術院会員独立美術協会会員）

南嶌宏（美術評論家・女子美術大学教授）

日本を代表する洋画家で、昨年から今年にかけて

数々の大規模な展覧会を成功させてきた絹谷幸二さん。

イタリアで学んだアーフレスコ技法による、

原色を駆使した壮大な作品世界で知られ、

その作品は美術品コレクターの間でも垂涎の的。

近年では、洋画の次世代作家を発掘するため、

私財を投じて「絹谷幸二賞」を創設して、美術界を賑わせた。

プリヴィエ企業再生グループ代表取締役会長の松村謙三氏は、

絹谷幸二作品の一大コレクターとして知られる。

昭和会展（日動画廊主催）に林武賞のあと、

請われて松村謙三賞を設立してすでに6年目となる。

さらに自身の名前を冠した美術館の建設も予定している

稀代の大コレクター。

今回は、二人をよく知る美術評論家の南嶌宏氏をまじえて、創造者とコレクター、そして美術評論家それぞれの立場から、日本の美術の未来への展望、絹谷芸術の本質論など

縦横に語り合つてもらつた。



右からアリヴィエ企業再生グループ会長・松村謙三氏、洋画家・絹谷幸二氏、美術評論家・南嶌宏氏



富嶽龍神飛翔 259.1×387.8cm 松村謙三コレクション

絹谷幸二賞のきっかけは松村氏

——絹谷幸二賞の創設のいきさつについて教えてください。

絹谷 そもそもきつかけは、私の一大コレクターである松村さんから、絹谷幸二賞をやりましたと言つていたいたことが始まりです。松村さんが「僕が、スポンサーになつてあげるからやります」と言つてくださつて、すべてが始まりました。

松村 絹谷先生はかなり躊躇されてましたね。

絹谷 まだ現役の画家なのに、自分の名前がついた賞を作るなんて、どうだろうと悩みました。普通なら買ってくれない大作をまとめて買ってくださる僕の最大のコレクターの松村さんが言つてくれさつたことだから、考えてみよう、是非やつてみたいと気持ちが膨らんでいつたんです。そしてかつて安井賞を主催していた毎日新聞に相談して、絹谷幸二賞が具体的になつていったんですね。

——昭和会展の中に松村謙三賞が創設にされたいきさつについても教えてください。

松村 最初は日動画廊の社長や芸術院会員の先生方から、「林武賞がなくなつたあと、松村謙三賞を出してもらえると若い画家たちの励みになるので、是非、賞を作つてほしい」とお願いされました。そのときは自分の名前の賞はちょっと恥ずかしいのでお断りし、そのかわり日動画廊の80周年だったので、日動画廊80周年の特別賞、100万円を2本出してあげました。翌年、「賞をあげた若手たちが凄く喜んで、作風も非常によくなつて

芸術には、人の命を守る力があります。

——絹谷幸二

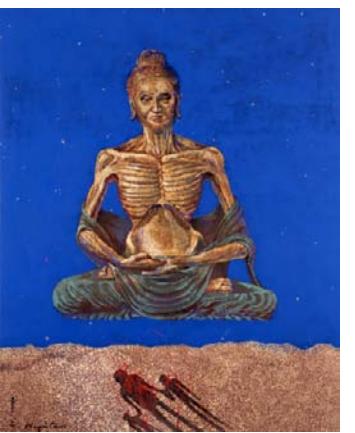
いて、賞の力は大きい、是非松村さん、賞を作つてください」と審査員のいろいろな方から言われ、「松村謙三賞」は林武賞のあと、昭和会賞と同額の200万円の賞としてすでに6年続いています。回を重ねるごとに賞をあげた若手の絵が良くなっています。賞をあげた作家たちも感謝の手紙を送つて来たり、「人生が変わりました」という言葉を何人からも直接言われる機会があり、賞を続けていってあげようという気持ちです。

——ところで絹谷幸二賞の創設の「井戸を掘つた人」である松村さんと、絹谷先生との出会いをお聞きかせください。

松村 これまでに3つの会社を上場させてきましたが、3つ目の会社を上場させるちょっと前の頃、今でも鮮明に憶えています。日動画廊の常設展に招かれて行つてみたところ、富士山を赤く描いた20号ほどの絵がありました。ハツとする絵で、その作品しか目に入らなかつた。こういう絵を描く画家が日本にいたんだと感動しました。「この絵を買うよ」と購入を即決しました。「自分の肖像画を描かせたいと思つていた。この画家に会つてみたい」と話したら、場を設定してくれて会食したことを憶えています。画廊の事前の話では絹谷先生は肖像画はめったに描かれないとことでした。



天空ガンドーラ黙想 162×130.3cm (100F)
松村謙三コレクション



天空ガンドーラ追想 162×130.3cm (100F)
松村謙三コレクション

九州出身のある女の子は、親や親戚から絵なんて辞めて早く帰つてこいつて言われ続けていたそうです。ところが、昭和会展で松村謙三特別賞を獲つて、月刊美術に大きく掲載され、しかも画壇の有名な先生と一緒に写真に納まつたところが掲載された。その本を実家に送つたら、親御さんが感激して掲載誌を何十冊も買つて親類縁者に配つたそうです。その上、東京の家賃も出してあげるからもつと頑張るように励まされたそうです。涙ぐんで「松村さんの賞を頂いて、本当に人生変わりました」と言われたときには、本当に賞を出しました。

南鳶 甲斐があつたと思いました。
南鳶 コレクターというより、パトロンそのものですね。僕はバロン松村と呼びたいくらいですね。
絹谷 素晴らしいですね。日本では名誉と経済がなかなか同時に得られません。芸術とは高貴なもので、食べることとは別にしてしまう。でも本當はそうじやない。芸術とは、本当に困つた時に、食べるものがなくなつた時に、命を助けてくれるものなんです。これがアートの大きな使命だということを忘れてはいるんです。私はこの国には文化庁ではなくて、文部科学省だけではなくて、経済産業省など各省庁から職員を集めた文化省が必要だと思いますね。

南鳶 いまの発言はとても重要で、本格的な芸術文化立国のためにも、安倍総理にぜひ聞いてもらいたかったです。

——絹谷先生は第17回安井賞を受賞されています。

それが画家人生を変えたとか。

絹谷 安井賞をもらつたときのことは、今でも憶えています。私は当時、独立美術協会の運営委員でした。当時は画商がバックについて、具象絵画の画家が有力候補の条件でしたから自分は無理だと思いました。私自身が画家を推薦する委員だったので、獲れそうな人を推薦しました。いかにも画商が喜びそうな具象の人を選びました。

ところがそれとは別に美術評論家連盟が私を賞候補に推薦してくれた。結果は、私が安井賞を頂くことになつたんです。妻と抱き合つて喜びましたよ。美術界の芥川賞みたいなものですから、安井賞作家となると画商

したが、私と意気投合して、肖像画を描いてくれることになつたんですよ。

南鳶 その20号の富士山の絵を見て、風景ではなく自分の顔を描いてもらおうと思ったんですか?

松村 そうです。この画家は世界的な画家になる、と直観的に思いました。絹谷幸二という画家の絵を体系的に集めようと決めたんですよ。

絹谷 肖像画というのは普通、すまし表情を描くものです。ところが松村さんは怒つた自分を描いてくれつていうんです。

松村 自分の鬼の部分を描いてくれ、と言つたんですよ。「仏」の部分ではなくて、経営者としての「鬼」の部分を描いてくれと言つたら、絹谷先生は「怒つた顔してくれ」と言う。無理ですよね!すぐには怒れない。

絹谷 そんな注文をされる方はまずいませんね。若く描いてくれとか、頭の角度をこうしてくれつていうのならわかりますけど。困りました。

賞は人生を変える

南鳶 「松村謙三賞」は画家の人生を大きく変えていますね。コレクター目線の賞はほかにありませんし。

絹谷 30歳を過ぎたりして子供ができたりすると、褒めてもらうだけでは食べていけないんですね。



きぬたに・こうじ
1943年奈良県奈良市生まれ。66年東京芸術大学絵画科油画卒業、大橋賞を受賞、第34回独立展、独立賞受賞（同67年）。68年同大学院修了 独立美術協会会員に推举。71年渡伊しヴェネツィア・アカデミア入学。アフレコ画を研究（～73年）。74年第17回安井賞受賞。77年昭和52年度文化庁派遣芸術家在外研修員として渡欧（～78年）。87年2001年第57回日本芸術院賞受賞、日本芸術院会員に任命。09年絹谷幸二賞が毎日新聞社主催で創設される。現在、日本芸術院会員、独立美術協会会員、東京芸術大学名譽教授、大阪芸術大学教授。

さんも注目してくれる。それだけ大きな節目なんです。今でも私は、そのおかげで画家を続けていられると思っています。賞というのは、それからい画家の人生にとって大きなものなんです。

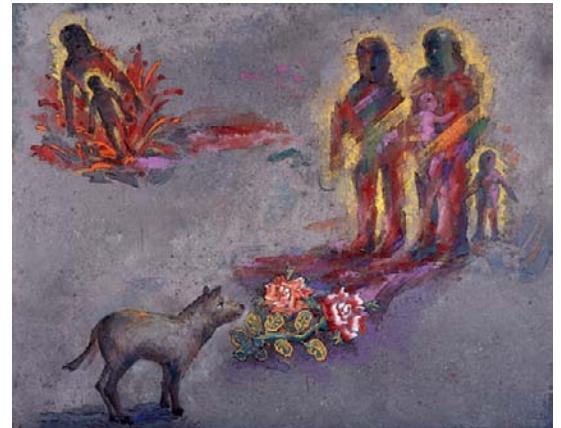
その前に頂いた独立美術協会の独立賞も大きな転機でした。イタリアに行く準備をしていたのですが、独立美術協会では、賞をとつて会員になると、翌年から審査員になるんです。なんとしてでも留学前に独立賞をとつておかないと、留学から戻ってきたときに後輩に審査される可能性がありますから。実際、そんな理由で辞めていく人も多くいました。独立賞は獲りたいと思って、血を吐きながら獲つた賞。安井賞は逆に、いわば天から降つてきた賞。いずれにしても賞は人生を左右するんですよ。

松村 当時の生活はどんな風でした?

絹谷 貧しかつたですよ。ペネチアでは、市場に行つてもイワシばかり目にしていました。その後に目が行くのがシャコ。ロブスターを売つてのを知つたのは、ずいぶん後のこと。日本に帰つてからもちつちつアパート暮らしでしたから、安井賞の20万円という賞金は大きかつたですね。ありがたかったです。

松村 その経験を今まで忘れずに憶えているんですね。

絹谷 でも、受賞というのは、一つのスタートなんですね。それをゴールだと勘違いしてダメな人も多い。藝大に入つてそれで終わつてしまつてしまふ人もいる。ゴールについたと思って、あ



花二輪 90×116.7cm(50F) 1997年 松村謙三コレクション

とはその絵の模写になつてていく。受賞という榮誉も、それと同じ危険を孕んでいます。だから、受賞者としての賞味期限は3年から4年くらい。その間に自分をイノベーションしていって欲しい。賞を取ることで広がった世界を、さらに広げていつて欲しいと思います。

「闇」こそ絹谷芸術の本質

——絹谷芸術はなぜこれほど人の心を捉えるのでしようか？

絹谷 色彩もいっぱい使っているんで、元気が出ると言つてくださいますね。ベネチアに行くと、家からなにから色がついているでしょ。そしてよく歌つている。アモーレ、カンターレ。元気で、朗らかで、楽しく暮らしている。食べ物だって赤かりませんけど。

絹谷 幸一とはそういうふた概念から飛び出した存在だからです。先生ご自身はどう捉えられよう、そういうわせていらっしゃるだけで、本質はそうではないと思います。当たつているかどうかは、わかりませんけど。

絹谷 間と光、男と女、水と油、共産主義と自由主義など相反するものはたくさんあります、それはみな一つのものの別の部分なのです。文殊菩薩は片手に蓮の花を、反対の手に刀をもつています。そういう視点でものを見たいと常に思つてゐる。

文殊菩薩に説教したのが維摩さんですね。興福寺に帽子をかぶつた像がある、あの維摩です。この人は在家人の人で、町の中で解脱した人物。維摩さんは文殊に、「お前は山の上に行つて修行して、解脱したそつだが、それではただお前ひとりが嬉しいだけじゃないか」と聞答を吹つ掛けるんですね。私はそういう見方がすごく好きなんですね。私は光と闇を双眼で同時に見たいし、絵を描くと像をデッサンするのに、黒い木炭で描くのは矛盾がありますね。

維摩の物語である維摩経では、二つの概念は一

いものを食べると元気になるし、青い野菜は体調を整える。それと同じで、目から色を食べれば元気になるんです。ですから色彩を思う存分使つた方がいいと思うんです。

日本人は本来もつと元氣があつたんですね。それが徳川政権300年の間に色彩が奪われたんですね。

その前の信長や秀吉の時代は色彩に満ちています。徳川家も日光東照宮だつたり、大奥の金襴縫子だつたり。狩野派の金銀の絵だつたり、派手なもので。ところが庶民に対しては地味な暮らしを押し付けたんですね。いまでも北朝鮮などの軍事政権は色彩を抑えてしまうでしょう。軍服を着させて、ほとんど同じ顔色にしてしまう。そのことにヨーロッパで気づいたんです。日本人もこういう資質を取り戻さないと元気にならない。そのためには色彩と歌を取り戻さないといけないと。

松村 これについては、美術評論家である南鳩先生の意見を伺いたい。

南鳩 先生は展覧会をたくさんされていますし、数多くの評論家が絹谷芸術についての論評をされているけども、実は先生はそれに一度も満足されていないだろうと思つていています。先生がおっしゃつたことを後追いして何かを書いたり言つたりしているのがほとんど。しかし、今先生がベネチアを例にしておっしゃつたように、あの光には実は裏側に闇があつて、そこが重要なところだと私は思います。みなさん色彩と光を前にして、わーつすごいっていうけども、それを可能にしている闇、解決不可能な闇に、先生の絵は根っこを張つているはず。ですから、もし一言で絹谷幸一生の意見を伺いたい。

南鳩 先生は、この絵は、難しい絵なんです。これが奈良仏教の深いところで、善も悪も違うものではないのです。共産主義国であるはずの中国が今やつていてることは、自由主義国以上のこと。

その一方で日本は銀行を救いましたけど、これは非常に共産主義的です。

普通は絵は明るいのが好まれるし、私もそれを描いていれば、幸せな気分ではいられます。しかし光と影は常に同体。そういうことを制作を通して伝えたいのです。

南鳩 あの明るい作品でも、極彩色 자체も何かの影だと私は思います。絹谷先生が生まれ育つた奈良はかつて国際都市でした。イラン、インド、中國、朝鮮といった世界中の文化のエッセンスが伝わり、それが東大寺の盧舎那仏へとつながっています。奈良の得体のしれないエネルギーの遺伝子を現代に引き継いだのが、彫刻家の井上武吉さんと絹谷先生だと思います。

絹谷 深いですね。それはフレスコ画とも重なつました。なかでも絹谷芸術の深い部分には、生死という問題が非常に大きくかかわつていています。セザンヌのサント・ヴィクトワール山が、石灰岩のまさに死の山であるにも関わらず、朝日が当たれば真っ青になり、夕焼けは真っ赤に変わると同じように、富士に代表される絹谷先生の風景画も、そういう次元で論じられるべきです。



まつむら・けんぞう
プリュエ企業再生グループ株式会社代表
取締役会長。他に大阪大学 大学院 法学研究科 招聘教授、大阪大学 知的財産センター招聘教授、経済同友会会員、金融委員会委員も。「松村謙三美術館」を清里にオープン予定。

という画家を言い表すとすると、「鳥海青児の最後の弟子であることを自認する画家」と言いたい。そこには鳥海青児のあの「闇」があるんですね。

絹谷 その通りです。そこまで見通されているとは……。

南鳩 確かにベネチアで光を見たことは一つの様式変換ではあると思いますけど、もともと先生の中にあつたものが出てきただけ。もし私が先生の作品一点をあげるとすると、「青の風跡」をあげたい。それはなぜかというと、ここにバルチユスを感じるからです。兄はピエール・クロソウスキーツは、グノーシス派というキリスト教の亜流というか、秘密教であるというのが私の意見なんですけど、これとも関係しています。エロスの根源につながっている。時代はズレますけども、ポップアートに共通する闇の部分を先生は持つていています。

松村 会長が何故、なんの予備知識もなしに絹谷作品を見て、惚れこんだかというと、松村会長自身もまた厳しい世界を生きてきた人だからだと思います。

松村 先生の暗い作品もずいぶん買つてますね。犬が遠吠えしている作品「花」を買つたときは、先生が「この絵は、難しい絵なんです。これを買うなんて！」って言つてましたね。

南鳩 先生は独立美術協会の重鎮で、日本の洋画壇の偉い先生と一般には捉えられていますけど、それは窮屈でしょう。もつと言えば、現代美術の作家として捉えられることも窮屈なはず。なぜな

芸術家を育てるには、その後のバツクアツブが大切なのです。——松村謙三



アンセルモ氏の肖像 80.3×100cm(40F)
1973年 第17回 安井賞受賞 東京国立近代美術館蔵



黄泉津比良坂（伊邪那岐·伊邪那美） 2012年

南鳩 その感性が、確認しあえる世界になつてしまふ
ないのです。

愛に満ちた行為はありません。 これほど
藝術家を支援して増やそうとされている。

絹谷 そういう形の愛情の注ぎ方なのです。
もつてゐるつもりですよ。

欲しいのは命を削つて描く大作
南鳶 しかし凄いコレクターの登場に、先生もまるでかし驚かれたのでは?
絹谷 自宅や倉庫の絵をすべて買う勢いでこれらましたからね。
松村 先生のご自宅に行くと、大きな傑作が飾つてあるんですよ。「これ買いましょう」というと、先生は「ありがたい」っていう表情をされるんだけど、奥様は「この絵は売らないでほしい」とよく言つてましたね。
絹谷 400号の大作です。まさか買ってくれるとは思いませんよね。壁を壊すか、巨大な重機でもなければ建物に入らないような大作を買ううなんて。

南島 欲しいのは命を削つて描く大作
しかし凄いコレクターの登場に、先生もさう

先生は「ありがたい」っていう表情をされるんだ
けど、奥様は「この絵は売らないでほしい」とよ

綱谷 400号の大作です。まさか買つてくれるとは思いませんよね。壁を壊すか、巨大な重機でもなければ建物に入らないような大作を買うな

綱谷 400号の大作です。まさか買つてくれるとは思いませんよね。壁を壊すか、巨大な重機でもなければ建物に入らないような大作を買うなんて。

松村 先生は僕に絵を買ってほしいと強く望んでたけど、奥様や家族の方は「この絵は売らないでほしい」という表情をされたこともたびたびでしたね。龍を描いた400号の作品も、ご子息の幸太さんが「ある夜、アトリエを見に行つたら、父がこの絵の前に倒れこんでいたんです。父が命を削って描いてる絵なんだと思いました」と言つてました。

絹谷 松村さんには、これからも末永くお付き合いでお願いいたします。

——本日は、とても有意義なお話をありがとうございました。

南鳩 そんな大作を買おうっていう人はまずいな
いので、先生も慣れてなかつたんでしよう。
——最後に、あらためて画家にとつて、コレクター

絹谷 一番ありがたい存在です。松村さんのようなコレクターがいてくださるおかげで、絵描きは自由に絵が描けるわけです。たくさんでなくていいから、こういう志のある方が必要なんです。絵描きからすると、すべての人に気に入られようとすると、平均点をとれる絵を描くことになる。で

もそうじやなくて、私に惚れこんで下さつてゐるゴ
レクターの方がいらして、定期的に買ってくださ
れば、作品も散らばらないし、描く方も思う存分
に絵が描けるんですね。

レクターの方がいらっしゃって、定期的に買ってくださる
れば、作品も散らばらないし、描く方も思う存分
に絵が描けるんですね。

「闇」を見過ごしてはなりません。鳥海青児から受け継いだ「闇」こそ
角谷吉嗣の本質のひきうなのです。――南嶺 宏



しま・ひろし
評論家。女子美術大学教授。国際
評論家連盟理事、全国美術館会議
熊本市現代美術館館長、ベネチ
ンナーレ2009日本館コミッショナー
歴任。昭和会賞をはじめ、数多くの
国内外の審査員を務める。

絹谷 ここまで、感じてくれる人は、日本広しといえども、いませんね。

南嶺 絹谷作品は、我々が死につつある存在であるにもかかわらず、その緊張感が薄くなっていることを如実に示してくれます。

クリル画になるにしたがつて、こうした認識が薄くなつてゐる感ります。

南嶺 油絵つていうのは、悠長に描けるんですね。しかしフレスコ画は、絵の具が乾かないうちに描かなければならぬわけです。おそらくそれは死が後ろから追いかけてくるつていう感じなんじやないでしようか。死が完璧に死にならぬいうちに描け、と。そして死が板についた瞬間に作品が成り立つ。追いかけてくる死の緊張感が結集したものがとして絵画が生まれる。

クリル画になるにしたがつて、こうした認識が薄くなつてゐる感じです。

松村 私も南鳩先生に同感ですよ。
南鳩 松村会長と出会わなかつたら、私もこんな
風には言えなかつたと思ひます。
絹谷 是非、先生に絹谷幸一論を書いていただか
ないとなりませんね。

藝術は命を救う、それを支えるのは
松村さんのようなコレクターの愛
——先生が考える画家の使命とは？

南鳶 私は学生にこんな話をします。例えば、なぜこの時間に光があるかというと、どこかにこの時間に一生懸命ピアノを弾いている人がいるからこの光があるのです。世界のどこかの片隅で、何度やつても落選ばかりする絵描きがいて、その人が絵を描かなければならないから、この光がと

91